

■忘れられない大阪

長きにわたりアジアへの、大陸からの、そして海の玄関口となってきた大阪・関西は多様な文化に満ち溢れた場所でもあります。大阪・関西に飽きたということは、真面目な話、生きるのに飽きたということになります。なぜなら大阪・関西にはすべてがあるからです。大阪・関西の人たちはすでに準備ができています。一緒に大阪・関西で楽しい時を過ごしましょう（要旨）

2025年大阪・関西万博の目的については、すぐにIRや「夢洲まちづくり構想」に関連した意見が出ますが、そもそも万国博覧会は、**人類の現状を世界的観点から俯瞰して、共通の課題に取り組むため行うもの**であり、万博招致委員会の榊原会長が「今回のプレゼンは少し風呂敷を広げすぎた」と仰っていましたが、1970年の大阪万博は、まさにそのレベルの視野で行われた万博だったのです。2025年の万博についても、「健康長寿」だけでなく、**少子高齢化や地球温暖化問題、資源の枯渇問題など、さまざまな視点からのテーマ設定と展示を行わなくてはならない**と考えます。それが、すべての企業やクリエイターに、自由な発想と活躍の場を提供することになるでしょう。IRの高層ビルの案が出ていますが、万博会場との関係で不適切に巨大なものは建設すべきではありません。

AI（人工知能）と民主主義

ここでこのテーマを取り上げるのは、現代という時代が、AIの能力の拡大とビッグデータの集積、あるいはキャッシュレス決済の導入などによって、**人権が侵害され、民主主義の過程が壊れるかもしれない事態**にあるからです。

私たちがネットで買い物をするとき、あるいは何かの情報を検索したとき、その内容がすべて記録され、その人がどのような嗜好を持っているか、思想をもっているかなどがすべて記録されてしまい、さらにそれが時に流出するという問題が生じています。これ自体大きな**プライバシーの侵害**ですが、さらに問題なのは、海外ではすでにそのようなデータが、お金を借りる時、あるいは会社への採用などを決定する際にひそかに使われていることです。そのためEUなどでは個人情報の利用に関する厳し

2025年万博のサテライト会場をどこにするかについては、今後、新たに就任された、中西宏明経団連会長のもと、日本国際博覧会協会を中心に検討されていくと考えられますが、EXPO'70を行い、万博記念公園のある吹田市においても、2025年万博の機会にEXPO'70の歴史を踏まえ、さらに、あらたなテーマに踏み込んだ、何らかの展示、イベント等を行うべきであると考えます。この場合、**どの程度の規模のサテライト会場が適切か**については、よくよく考える必要があります。

短期間2025年のサテライト会場となることによって、これまでに積み重ねてきたEXPO'70の遺産（太陽の塔はもちろんですが、国立民族学博物館や日本庭園、自然文化園等素晴らしい文化の集積）に傷をつけたり、現在存在している商業施設の運営に過度の混雑などで悪影響をもたらしたりすべきではありません。しかしながら、それなりの賑わいを演出することも大切ですから、自然文化園を利用し、2025年万博のテーマに沿った現代美術展などを行うことも可能でしょうし、多くの方の思いが集まれば、一度取り壊されてしまった万博美術館を再建し、2025年万博の遺産として、海外からの旅行者の目的地とすることも考えられます。学識者だけではなく市民の皆さんの声も良くお聞きして、将来世界遺産になろうとしている万博記念公園にふさわしいものを建設すべきです。

い規制が生まれています。

AIの判断について問題なのは、多くのAIでは、AIがどうしてそのような結論を出したのか、人間に判断できないシステムになっていることです。ある人が、AIによって採用に適さない人のグループに分類されると、そのAIを使っているすべての会

